

『不便がくれる幸せ』

“当たり前”を手放して分かる、心温かな暮らし。
文と写真・沖中美保子



新緑がまぶしい季節になりましたね。モノトーンだった世界が一斉にカラフルになっていくのを感じます。日本では春が色々な物事の始まりになるので、きっと皆さんも気持ちや生活に多少なりとも新しい変化があったのではないのでしょうか？

【当たり前がありがたい！】

私は最近水の大切さや当たりの有り難さをしみじみと実感する機会に恵まれました。休日を利用して以前からお世話になっている山小屋の小屋開け作業のお手伝いに行かせていただいた時のことです。4月も半ばを過ぎていましたが、辺りは春山というよりまだまだ冬山。入山してから水を確保するまでしばらくの間は水が出ないので、昨年小屋閉め前に用意しておいた水（凍ってる！）と入山時に持ち込んだポリタンクの水しかありません。水の残量を気にしながら炊事や洗い物、そうじなど全ての水を賄います。オーブンに向けてどんな洗い物もしていきたいのに自由に使える水がない。もちろんお風呂など入れません。調理で茹でた

【便利さと引き換えに】

そのような生活は数十年前なら普通だったかもしれませんが、蛇口をひねれば水が出るのが当たり前前の現代、私達は有り難いと感じる気持ちが薄れてしまっていないでしょうか。便利さを追求してきた結果、たくさんモノが溢れ、



右ページ：
水を確保するために水源地から360m(!)のホースを引く。水源地の横には雪に埋まった他の山小屋が。

右：
炊事場には貴重な“水源”のポリタンク。雪の重さに耐えられるよう、まだ補助の柱は入ったまま。

上：
日常の中でも不便を楽しめるキャンプ生活。満たされた生活を送る子どもたちには、貴重な体験かもしれない。

ポタン1つで簡単にできることが多くなりました。昔の生活に戻るのには不可能ですし、便利なのが悪くないと思いません。次の世代のためにによりよい暮らしを、と一生懸命働いて下さった先人のおかげで日本は急成長を遂げ、今のような生活を送ることができています。ただ便利な暮らしと引き換えに失うものがあることに気付かなければならないと思うのです。不便な中で生み出される工夫や知恵、それを楽しむ心は私達を健全に成長させ、生きる力を与えてくれます。不便だからこそ感じられる有り難さや豊かさもあると確信しています。この日本では幸運なことに私達は「選択」することが出来ます。自分なりの価値観を持ち、自分だけでなく次の世代にとっても本当に必要なもの、大切なものは何なのかを考え選択していく力をつけていくべきなのではないでしょうか。

【選択できる、豊かな暮らし】

山小屋で過ごした後、友人に「ニングルの森」という本を紹介されました。自然と共にシンプルに生きる

り蒸したりした残りのお湯はありがたい副産物。大切に洗い物などに少しずつ使います。そして水が出た時の感動といったら！みんな喜び合ったのは言うまでもありません。（その後ホースが凍って水が来ず、またポリタン生活に戻ったのですが…。）少しでも早く水を確保しようとか大変な作業を行ってくれたスタッフに、感謝の言葉が自然と出てきてみんなが幸せな気分になりました。笑顔が溢れ、その日の夕食はまた格別に賑やかでした。資源やモノを大事に使い、小さなことやお互いに感謝し、協力して成し遂げる、シンプルな共同生活の中で喜怒哀楽と向き合う時間は、充実していて温かい気持ちで心を満たしてくれました。

